

対話とは



松川の桜

(<https://toyama.visit-town.com/toyamastyle/matsukawa>)

富山県富山市の中心に富山城址公園があります。この公園の横に松川という川があります。昔は、川のそばに松がたくさんあったので、松川という名前がつけられました。その後、第二次世界大戦のあとで、町の成長を願って、川のそばに桜が植えられました。今では、富山市の中でも有名な桜の名所で、「日本さくら名所100選」に選ばれています。



二口金一作「対話」

松川の両側には散歩のための道があります。ここには、富山県出身や富山県に住んでいる彫刻家の作品が並んでいます。写真の彫刻は、二口金一（ふたくちきんいち）さんが作りました。タイトルは《対話》です。二口さんはこの作品を作ったとき、「現代社会における不安な気持ち、人と人との関わり合いなど複雑な人間関係の中の対話を、人と鳥の姿を借りて表現してみました。石の上からはみ出した人は空間を大きく作って、人と離れたところに鳥を置きました。そして、人と鳥が向かい合っていないところに面白さがあると思います」と言いました。

対話の意味は、「向かい合って話すこと。二人の人がことばを交わすこと（『広辞苑』）」です。実は、この作品の彫刻家は私の祖父です。それで、この作品について、家族と対話をしてみました。



(Drawn by Hinako FUJIMURA)

私 : この作品についてどう思う？ どういう意味だと思う？

甥っ子 : えっと、なんか考える人。間違えた。鳥と見つめ合っるとる。

姪っ子 : 「ははっ」て感じかな？

私 : もうちょっとよく考えて！

姪っ子 : 「いすに座る女性」は？めっちゃよくない？

妹1 : この作品のタイトル対話だったよね？言葉じゃなくても、対話できる
みたいな意味なのかなと思ったよ！

妹2 : なるほど～！日向ぼっこしてるんかと思った！

私 : 私はタイトル知らなかったから、「人は鳥に気づいていなくて、鳥は人に気づいてて、仲良くなろうと鳥が人に近づいている」って印象を受けた。

母 : お母さんは、女性の帽子のつばのキリっとした感じから厳しさを感じて、鳥がいることで和やかさも入り交じって、アンバランスを感じるかな。

父 : 鳥と人は会話ができないが、ベンチの上で、お互いの距離感を持つことで、対話ができる事を強調し、当時の社会への投げかけた作品かな。

皆 : お父さん、作品の解説読んだね（笑）。

さて、みなさんは、この作品を見て、どんなことを考えましたか？

(931 字)

(2020.11 Written by Wakiko FUTAKUCHI)

<参考資料>

- ・『宇部の彫刻ガイド』宇部市（1997）
- ・『広辞苑第六版』岩波書店（2011）

- ・「富山いきいきライオンズクラブ」ウェブサイト

<http://www.eetoyama.com/ikiiki/activity/index.html>

- ・「VIVIT TOYAMA STYLE」ウェブサイト

<https://toyama.visit-town.com/toyamastyle/matsukawa>

(2021.4.1 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています (クレジット : ©たどくのひろば)。このライセンスのコピーを閲覧するには、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/deed.ja> を訪問して下さい。

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. (credit : ©たどくのひろば). <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>